



特集：場をひらく 場をひらくと風が通る

人が集える場は、あればあるだけいい。そう思ったのは20代の半分を大阪にある釜ヶ崎というまちで過ごし、まちの人たちと時間を共にしたことがきっかけだった。日雇い労働者のまちとしても知られる釜ヶ崎を表すには「多様性」という言葉では不十分なほど、人や想いが混在していて、その雑多さが生み出す活力や人間性みたいなものを肌身で感じていた。

2023年の夏、KIITOで開催した「キイトナイト」のゲストとして、ドイツのライブツィヒで国籍や年齢、性別、宗教、経済状況などを超えて様々な人が訪れる「日本の家」という場をひらいた大谷悠さんをお招きした。大谷さんは「楽しいことも、問題や悪いことも、両方あってはじめていろんな人がいるんだと気づく。多様性も共生もいといとこりできるものではないということ、場をひらくことで学び得た」と話された。

そして、大谷さんは「自分たちが生きていくための場づくりが広がり、誰かのためや公共性にも繋がっていく」とも。社会の課題とされることを考えることももちろん大切だけど、まずは自身のことを考えることから始める必要があるのだと問いかけられたようだった。場をひらいて人や社会と出会うことは、ひいては自分自身をひらいていくことでもあるのだと思う。そんな問いかけができる可能性が、場をひらくことにはあるのではないかと日々考えている。

場をひらくことは、自分たちの目指す方向や意思を掲げ、行動範囲を広げていく。一方で、偶然性や物事の不安定さにも「おや？なんか面白いぞ」という感覚を大事にし続けることが、活動の深みとなり魅力になるだろう。その分、多様な価値観が生まれ、それら多様なものが混在している場ほど面白く、同時に面倒なものはない。意見の相違を通じて、いかにして社会の中で多様なものを抱合していくかということを考え、実践するきっかけが生まれる。そうした形としては見えにくいものに向き合う“あわい”を大切にしてみたい。

関わり合いの中で少しずつでき上がっていく空間を使った社会への問いかけは、解決されるべき「problem」ではなく、私たちが日々生きているこの社会の中で共に考え続ける「issue」に向き合う姿勢を表すことでもある。関わり合うことを諦めない姿勢が、私たちの想いや活動を未来へと繋げていくきっかけになるのだと信じている。どんな出来事が待っているのか。私たちもまちに出てみるとしよう。

文：高橋亘 (KIITO スタッフ)
ビートニク文学愛好家。KIITOでは地域活動を支援するFARMスタッフ。近い将来、本格的に場づくりを行いたいと思っている。

近年、KIITOでの〈場をひらく〉ことにまつわる企画

- キイトナイト29映画部
「場をひらくこと、社会と関わること—ライブツィヒのまちから考える都市の隙間の使い方」
ライブツィヒで「日本の家」を立ち上げた大谷悠さんをゲストに迎えたトーク、ドキュメンタリー映画「40m² Freiraum / 40m²のフリースペース—日本の家」の上映も。2023年7月22日開催

- +クリエイティブゼミ vol.139
リサーチャー養成編「リサーチ・リテラシーを学ぶ」
例題4：商店街の空き家をみんなで考える。
神戸市長田区にある房王寺ショッピングセンターを対象として、ゼミ生(参加者)がリサーチと議論を重ね空間の活用方法を考えた全6回のプログラム。2023年6月-7月開催

神戸ぐらしはじめました。

18人目

森田亜紀さん (臨床心理学博士)
ガイ・シビラさん (作家、旅行作家)



神戸歴：3カ月22日 (取材時点)

心理学を学び、NYやハワイなどでカウンセラーとして活動を経てきた森田さん、世界を旅し、作家や脚本家、監督として活動してきたガイさんご夫婦。絵画や石像など、二人の感性が詰まった新居にお邪魔してきました。



谷口太一さんの神戸めし

パパバピッピーズの「フルーツサンド」



つい最近引っ越す前までは、近所なのでよく通っていたというカフェへ。甘いものに目がないという谷口さんイチオシのフルーツサンドは、季節ごとのフルーツがこぼれそうなくらい乗った贅沢なメニュー。ほかにも動物を模した巨大かき氷や、イチゴあめの調理過程を楽しく見せるミニシアターなど、遊び心満載な工夫の数々に谷口さんも惹かれていたそう。地域の人々が集まる場にもなっていて、これまではハロウィンに合わせた仮装ごみ拾いイベントなども行われ、工作好きな谷口さんが優勝したという驚きのエピソードも聞くことができた。

パパバピッピーズ【月見山】
兵庫県神戸市須磨区行幸町3-7-24

18. 谷口太一さん (神戸市役所)



神戸市のKIITO担当部局職員として、子どもの創造教育に関する取り組みを中心に協働。

神戸への移住、最近増えているそうです。神戸に越して間もないあの人に、気になる質問をぶつけてみました。



著者：森田亜紀 (臨床心理学博士)

Q. 神戸という街を選んだ理由は？

ガイ：旅行で三宮を訪れた時、ローカルシティならではのサイズ感や、親しみやすい人との距離感にとてもアットホームな印象を受けました。それでこの街に住めるかもと思ったんです。それと、私はイタリア料理をよく作るので、パルミジャーノチーズやプロシュートは欠かせません。美味しい料理にとって食材選びは大事。様々な国籍の人々が暮らす神戸には、その国の食材があるのも決め手でした。

亜紀：街のあちこちに芸術や音楽など文化が身近にあるところが魅力的です。6月に引っ越したばかりなので、ハーブガーデンや、北野、元町を散策したり、六甲山の芸術祭に参加したり、仕事の合間に海と山に囲まれた神戸を楽しんでいます。お気に入りにはなんとといってもNight Picnicなどが催される東遊園地や街づくりのイベントが目白押しのKIITOです。

5問でわかる 世界のデザイン都市ガイド

デザイン都市って何？世界の「デザイン都市」担当者に共通の質問を投げかけて解きほぐします。第25回は、スペイン・バロック様式の街並みのなかに、先住民の文化が各所で見られるメキシコ中央平原に位置するケレタロから。

Q1「ここぞデザイン都市！」というスポット / Q2 ケレタロのおススメの音楽 / Q3 最近、一番驚いたこと / Q4 ハマっていること / Q5 デザインをひと言でいえば

Vol.25 メキシコ・ケレタロ | Querétaro

- 繊維工場をリノベーションした、デザインと文化の複合施設「ヘラクレス・ガーデン」。アート、建築・都市計画とランドスケープ、陶芸、食文化、映画やコンサートが体験できる施設は、周辺のコミュニティとも連携しています。
- 地元バンド Solovino の「Reinventar」。Solovinは、ラテン音楽のリズムとフレーズを探求するフュージョン・プロジェクトです。
- 創造的・文化的スペースがまちにオープンするスピードに驚いています。
- クリエイティブ・ツーリズムです。ケレタロで創造性を育むために、デザインと観光を結びつけるアイデアを試しています。
- デザイン＝Creation (創造)、スペイン語では Creación です。

🗨 答えてくれた人

Ana Eugenia Vázquezさん

持続可能な建築を目指す建築家。クリエイティブ・ビジョナリー。世界的な学術研究機関からDiré Nikkhóの共同設立にいたるまで、持続可能な居住環境を創造し、デザインを民主化し、そして、社会を改善するためのアートを支持しています。



KIITO NEWSLETTER VOL.038

2023年11月発行

「KIITO NEWSLETTER」は、デザイン・クリエイティブセンター神戸 (KIITO) が年4回発行する情報誌です。センターのコンセプトである+クリエイティブな活動を発信していきます。

発行：デザイン・クリエイティブセンター神戸
編集：竹内厚、KIITO 出版部
デザイン：一野篤

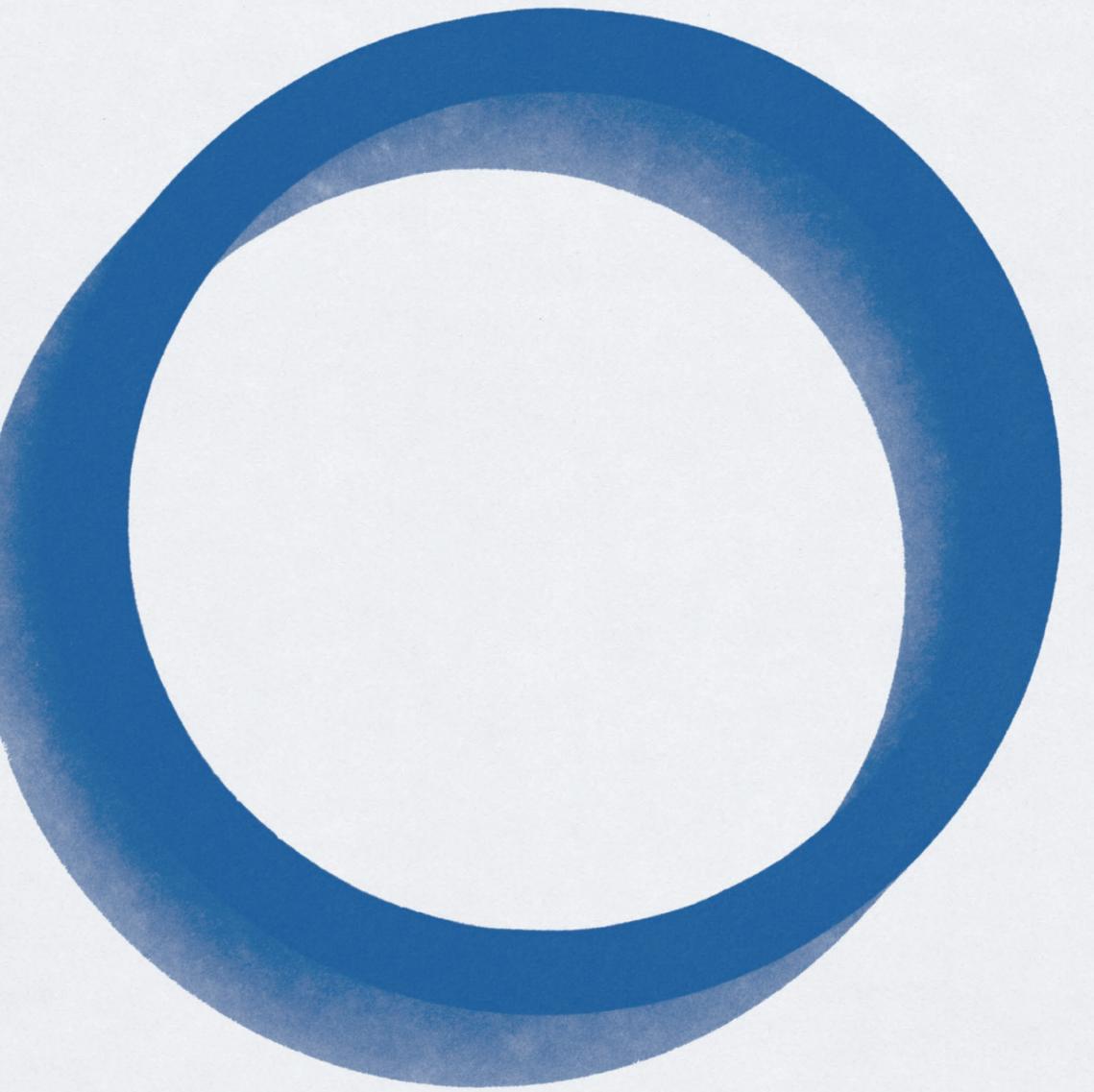
KIITO+O:

ACCESS

阪急・阪神神戸三宮駅、JR三ノ宮駅よりフラワーロードを南へ徒歩20分
国道2号線を越えた神戸税関東向かい神戸市営地下鉄海岸線三宮・花時計前駅より徒歩10分
ポートライナー貿易センター駅より徒歩10分
連節バス「Port Loop」KIITO前下車すぐ

CONTACT

デザイン・クリエイティブセンター神戸 (KIITO)
〒651-0082 兵庫県神戸市中央区小野浜町1-4
TEL: 078-325-2235
E-mail: info@kiito.jp
開催時間：9:00-21:00
休館日：月曜日(祝日、振替休日の場合はその翌日) 年末年始12/29-1/3
https://kiito.jp/



【連載企画】
神戸ぐらしはじめました。
○○さんの神戸めし：谷口太一さん
世界のデザイン都市ガイド【ケレタロ】

場をひらく 長田の商店街の場合

What's on

「災間」「分有」から考える、災害の記録と継承

災害を主語に語るときに当事者／非当事者、経験の大小などによりとりこぼされてしまう出来事や言葉。未来へ経験をつなぐために大切な、それらの記憶や言葉を残すにはどのような方法があるのでしょうか？ リサーチプロジェクト（災間スタディーズ）では、震災を経験した地で行われた活動や表現に光をあて、トークやワークショップを通して継承の糸口をさぐります。

災間スタディーズ：震災30年目の「分有」をさぐる

日時：2023年11月～2025年3月
主催：デザイン・クリエイティブセンター神戸、災間文化研究会

#0 上映会×トーク
「わたし」をひろく術としてのアート
11月18日（土）13:00-19:00
ゲスト：アサダワタル（文化活動家）
聞き手：災間文化研究会
（佐藤李青（アーツカウンシル東京プログラムオフィサー）、高森順子（情報科学芸術大学院大学研究員、阪神大震災を記録しつづける会 事務局長）、宮本匠（大阪大学大学院人間科学研究科 准教授））
参加費：1,000円（高校生以下無料）
協力：アートアクセスあたち 音まち千住の縁（#0）



News

KIITO:300 オリジナルBGMが完成！

KIITO 3階にある、あらゆる世代へ開かれたプラットフォーム「KIITO:300」。7月に開催した連続ワークショップ「音ラボー-KIITO:300のBGMをつくらう！」で、シンガーソングライターの早瀬直久さんと子どもたちが、この場所のためのBGMを考えてくれました。素材は、子どもたちが集めたKIITO:300や身の回りで流れる、いつもは気に留めないような音。このBGMは開室時間中に流れているので、ぜひ足を運んでみてください。



KIITO:300
開室時間：火から金曜 11:00-19:00
土日祝 10:00-19:00

Report

集まれ！ KIITOサポーター

KIITOサポーターは、イベントの準備や当日運営をお手伝いいただくなど、KIITOの活動に欠かせない存在。そんなサポーターの活躍の場を増やすべく、様々な試みを行っています。新しい取り組みとして実施した交流会は、サポーターが主体的に企画するワークショップを実施するきっかけとなりました。交流会をはじめとした試みは今後も実施予定。サポーター活動を通して、KIITOをもっと身近に感じてみませんか。



サポーター登録はこちら

【房王寺ショッピングセンターのこと】

市営房王寺住宅に付属した、神戸市長田区にあるアーケード商店街。神戸らしい山すその傾斜地にあたり、複雑な路地が入り組んで独自の景観をなしている。商店街ができた昭和52年当時は約20店が開業し、現在は寿司屋やクリーニング店など5店が営業中。



みんなのリビングを目指す

家にある壊れてしまった愛着のある家具を集め、それらを地域の子どもと直しながらリビングのような場所をつくる。たとえば椅子、机、台などをつかって、そこにテレビを置いてみんなでスポーツ観戦をしようと。



子どもに優しいコインランドリー

商店街の「しろくまコインランドリー」の一角が駄菓子屋となっていて、学校終わりの子どもたちが集まっている。店主の熊谷さん夫妻は、三宮で定価で仕入れた「神戸ノート」をここで子どもたちのために定価で販売している。



アーケードシェアリング

物を介してのシェアではなく、この場所いいねという気持ちを分かち合うシェアを目指す。たとえば、近隣の学校の文化部の活動発表の場として利用する、とか。同じ場所で時間や体験を共にしながら、さらにこんなことをすれば面白いといったアイデアを話しあっていけたらいい。

【+クリエイティブゼミとは】

社会的な課題に対して「+クリエイティブ」なアプローチで解決する考え方や手法をゼミ形式で学ぶプログラム。各回異なる課題やテーマを設定し、小グループのディスカッションを行い、課題解決への方策を導き出すプロセスを通じて実践する場を提供している。これまでに39回開催。



お店どうしのシェアがある

商店街のリサーチを行うなかで、あるお店に飾ってあるものが別のお店の中にも飾ってあるのを見かけた。何かがシェアされて、お店同士の関係性が見えたことにヒントがある気がする。

野菜を育てる

どこか閉じた店のシャッターを上げて、屋内で農業をするのもおもしろいのでは。土いじりがしたい近隣の人たちや小学生が畑の世話をする風景が日常になればいい。



人が集って関われる場を

商店街のアーケードは大きな吹き抜けのある半屋外で気持ちの良い空間。また、近くには保育園や学校、地域福祉センターが多数あり、多世代が暮らす地域性がある。店舗が入れば活性化すること、裏を返せば活性化すれば店舗が入ると考えられる。つまり、人が集って関われる場をつくることで、賑わいや活性化につながるのでは。



巻き寿司パーティー

時間をかけて何かを一緒にする体験を重ね、徐々に商店街の外から新しい人を呼んでくるのが大事。そのためにみんなで一緒に食事をつくって食べながら、ワイワイ話ができるといい。「巻き寿司パーティー」は、ギネス記録を目指す、具の種類をたくさんつくる、流し手巻き寿司をする、などの広がりしろもある。



座りたくなる場所をつくる

きれいに整備されたアーケードはあれど、人とゆっくり交流できる場所、具体的には、座る場所が見当たらなかった。道行く人がここで立ち止まって座りたくなるような場所をつくるのができればいい。



さまざまな理由から増え続ける空き家。ですが、視点を変えれば新たな可能性を生む余白の空間と捉えることもできるのではないのでしょうか。KIITOの+クリエイティブゼミでは、房王寺ショッピングセンターの空き家活用について、現場リサーチを経てゼミ生のみんなで議論を重ね、いくつかのアイデアを出し合いました。ここではゼミでの発見や議論、アイデアをご紹介します。

常連の集まる寿司屋さん

昔から値段据え置きでとても安い寿司店「日高寿司」はいつも常連でにぎわっている。とって、外からやって来る人たちも足を運びやすい。店主の長坂さんは、房王寺ショッピングセンターの世話役で、コミュニティ形成を担うハブ的な存在。



商店街の人たちの声

日高寿司 店長 長坂幸則さん

これまではイベントを開催しようにも方法がわからなかったのですが、長田区役所やKIITOの方、ゼミ生のみなさんが来てくださったのでよかったです。私にとっての商店街は、一言でいえば「憩いの場」。いろんな場所から人がやってきて、お互い気軽に話せるような雰囲気できたらいいなと思っています。

房王寺ショッピングセンター 会長 佐々木寿達さん

今は何もしていないけれどこのままにするつもりはなく、やりたいと思っていることはたくさんありますし、新しい活動が始まることに商店街のみんなが期待しています。「何か経験してみたい」と思っている人には気軽に聞ってもらえたら、きっとこの商店街は再びスタートラインに立てるはず。

今後のこと

商店街にKIITOのサテライトスペースが!? 房王寺ショッピングセンターの一角では、空き家改修・活用プロジェクトが進行中。元・焼き肉屋を一般参加者とともに改修を進めるDIYプログラムを経て、新たなまちの交流拠点としてKIITOのサテライトスペースがオープンします。ゼミ生のアイデアとあわせて拠点を活用していく予定です。

房王寺ショッピングセンターの
空き家をみんなまで考えてみる

長田区